



と っ て つ き は ち

把手付鉢と流水文

時代：弥生時代中期

調査名：唐古・鍵遺跡 第33・37次調査

発見年：①1988年（第33次調査）、②1989年（第37次調査）

大きさ：①高さ21.8cm、②高さ9.7cm

暑い夏の飲み物の一つ、ビール！！これをジョッキで飲むとおいしいですね。今回は、このジョッキの形に似た弥生土器の「把手付鉢」とそこに施された流水文を紹介します。

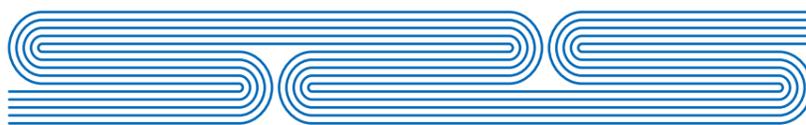
①の土器は、弥生時代中期に作られたもので、全面に^{くしが}櫛描き文様が施されています。上から順に^{れんじょうもん}簾状文、^{えんけいもん}円形文、^{りゅうすいもん}流水文、^{せんけいもん}扇形文、^{ちよくせんもん}直線文、^{はじょうもん}波状文が丁寧に描かれています。中でも流水文は、近世の絵画に見られる「水流」の表現に似ていることからその名がつけられましたが、この文様の起源は、縄文時代晩期から弥生時代前期にみられる「^{こうじもん}工字文」にあると言われていています。

流水文の描き方は、時期によって異なり、弥生時代中期前半には横方向に流れる「横型流水文」、弥生時代中期中頃には縦方向に流れる「縦型流水文」が多く描かれました。

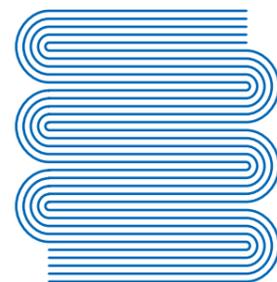
流水文は^{どうたく}銅鐸にも見られます。弥生の人々が、流水文を「水流」とみていたかは疑問ですが、特殊な文様としてみていた可能性があるでしょう。



工字文模式図



横型流水文模式図



縦型流水文模式図

